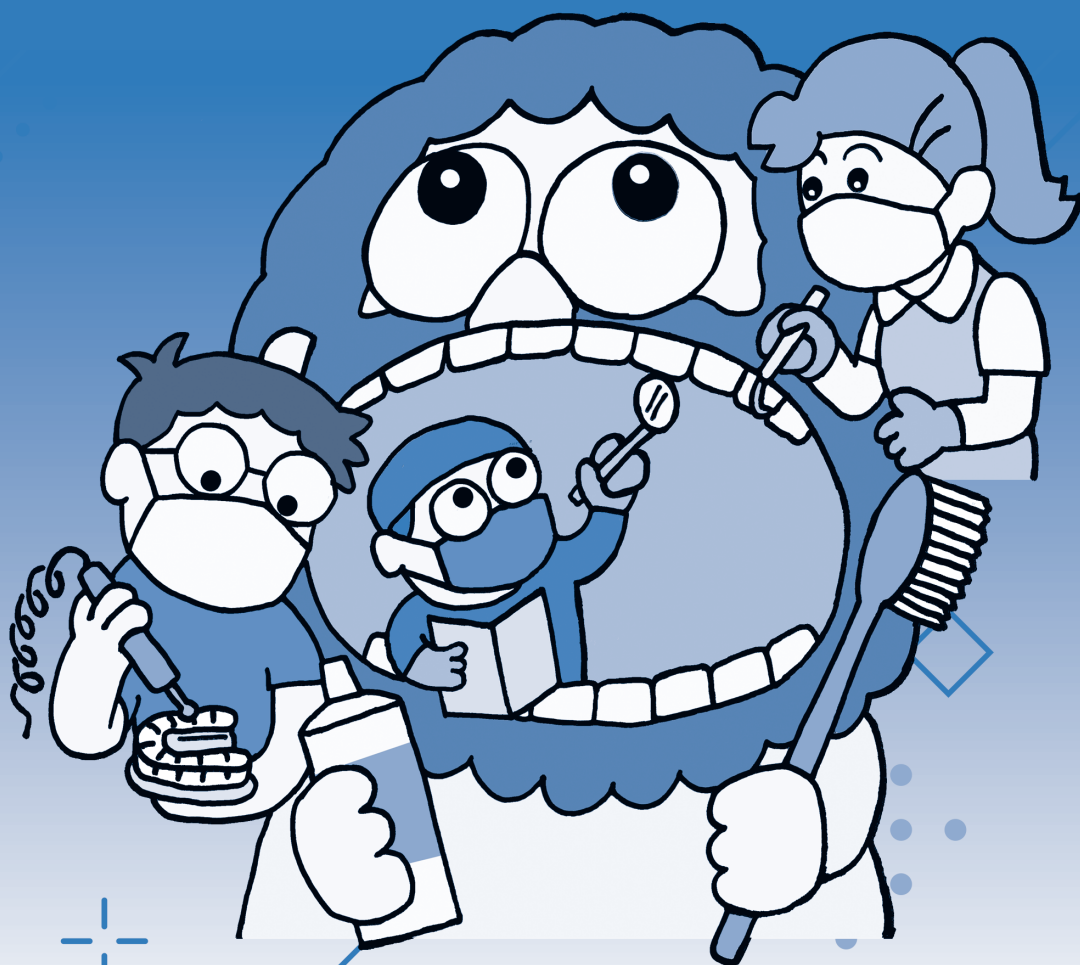


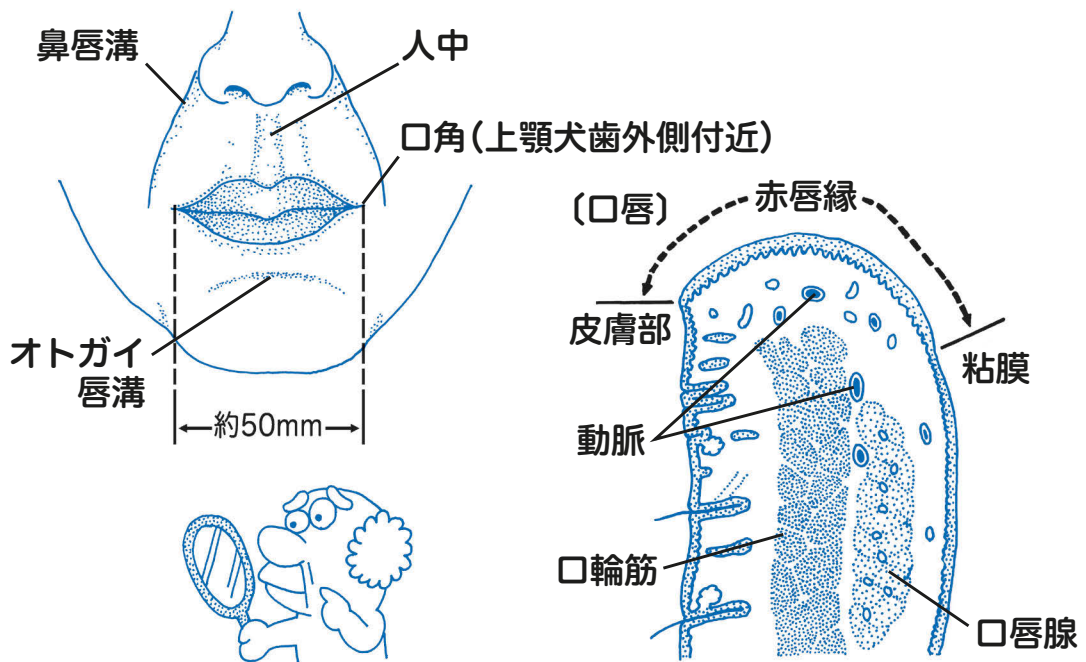
イラスト 口腔顔面解剖学

●松村讓兒・島田和幸 編著●



中外医学社

口唇周囲の構造と名称



口唇は、口唇皮膚部と赤みを帯びた口唇粘膜部からなり、両者の移行部を赤唇縁といい、口輪筋辺縁部の突出で形成されている。また、上唇のほぼ中央を、外鼻から赤唇縁まで縦に走る幅約8mmの溝を**人中** philtrum という。赤唇縁は人中のところで少し陥凹して弓形を呈する（俗に **Cupid's bow** とよぶ）。人中とその外側部の口唇の癒合不全が口唇裂である（「正常顔面・口腔・口蓋の発生」「顔面裂と口唇口蓋裂の発生機序」を参照）。人中の下端で赤唇の正中に少し高まりがみられるところを**上唇結節** tubercle という。

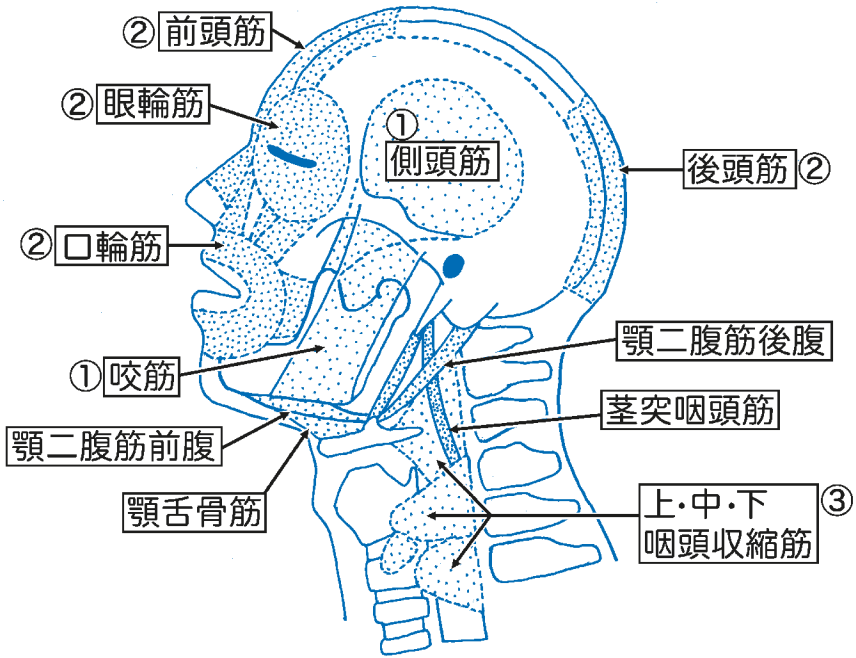
口唇 lips の境界は、上方は外鼻、側方は**鼻唇溝** nasolabial sulcus、下方は**オトガイ唇溝** mentolabial sulcus でオトガイ部と区別する。

鼻唇溝は加齢とともに下方へのびて長くなり、深さも深くなる。オトガイ唇溝は鼻唇溝に比べると不明瞭である。

口裂 oral fissure は、口唇のほぼ中央を水平に走る裂隙で、長さは約50mmである。口唇は、口裂を挟んで上方の上唇 upper lip と下方の下唇 lower lip に分かれる。口裂の両端を**口角** angle of mouth といい、口角の外側で上唇と下唇が連絡するところを**唇交連** labial commissure という。口角は、上顎犬歯中央から第1小臼歯の間に位置する。

口唇の内部構造は、外側から口腔側に向かって、皮膚、口輪筋、動脈輪、口唇腺、粘膜の順に並んでいる。赤唇縁は、皮膚と粘膜の間に位置し、皮膚の一部であるが、毛が生えていない。また、上皮は完全には角化していないために半透明を呈し、その下にある血管内の血液がすけて赤く見える。

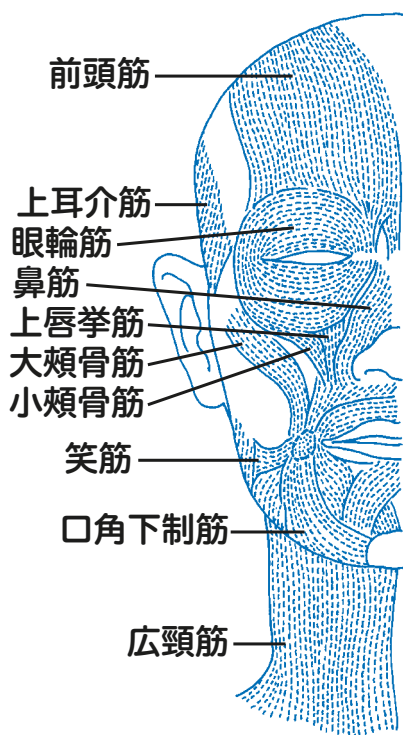
鰓弓器官



咽頭弓	骨・軟骨	神経	筋	舌
第1咽頭弓(顎骨弓) 上顎隆起 → 上顎骨・頬骨 下顎隆起 → 下顎骨 メッセル軟骨 (ツチ骨・キヌタ骨)		三叉神経	咀嚼筋① 顎舌骨筋 顎二腹筋前腹 鼓膜張筋 口蓋帆張筋	舌体
第2咽頭弓(舌骨弓)	ライヘルト軟骨 (アブミ骨 / 茎状突起)	顔面神経	表情筋② アブミ骨筋 顎二腹筋後腹	
第3咽頭弓	舌骨(体部)	舌咽神経	茎突咽頭筋	舌根
第4咽頭弓と 第6咽頭弓	喉頭軟骨	迷走神経	咽頭筋群③ 内喉頭筋 口蓋帆挙筋	

咽頭弓から形成される器官を**鰓弓器官** branchial apparatus という。咽頭弓は三胚葉（**内胚葉・中胚葉・外胚葉**）成分をすべて含み、顔面～頭部領域の様々な器官の形成にあずかる。それぞれの咽頭弓から形成される**鰓弓器官**を表にして示す。

表情筋（顔面筋 facial muscles）



【表情筋の概略】

顔面の表情に関係する筋であり、皮膚の直下に存在する非常に薄い筋群である。これらの筋がお互いに関連して運動を行うことでより繊細な感情を顔面にあらわすことができる。人間以外の動物では表情筋の発達が悪い。またこの表情筋は他の骨格筋と異なり、筋の一端または両端が皮膚に終わるような形態を示すために**皮筋**ともいわれる。これらの表情筋を存在部位により5つの筋群に分けると、

- ①頭蓋冠部（頭皮）の筋
- ②眼瞼部の筋
- ③鼻部の筋
- ④耳介部の筋
- ⑤口唇と頬の部の筋

からなり、全部で約30個からなる。

【頭蓋冠部（頭皮）の筋】

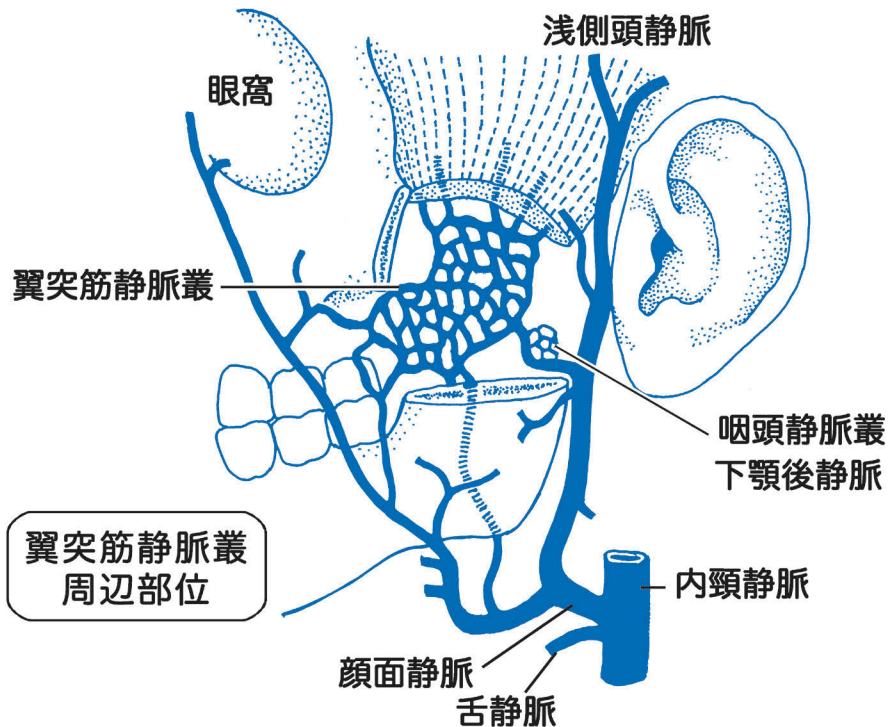
頭蓋冠の上にある筋で**頭蓋表筋** epicraniius といわれ、前面と側面に分けられ、それぞれ**後頭前頭筋** occipitofrontalis と**側頭頭頂筋** temporoparietalis の2つである。後頭前頭筋はさらに前頭筋と後頭筋に分ける。その間には非常に強い中間腱の膜である**帽状腱膜** epicranial aponeurosis が存在する。この腱膜は、頭皮と強く結合しているが、骨膜との結合はゆるい。ただし帽状腱膜には側頭頭頂筋の腱膜も入り込む。後頭前頭筋のうち前頭筋は帽状腱膜から起こって、眉部と眉間の皮膚に付着する。後頭筋は後頭骨の最上項線から起こり、帽状腱膜につく。前頭筋が働くときと額の皮膚のシワを形成し、**眉毛**と**上眼瞼**の皮膚をひきあげる。驚きの表情をあらわすときなどに収縮する。側頭頭頂筋は帽状腱膜に起こり、耳介近くの皮膚に停止する。

【眼瞼部の筋】

眼輪筋 orbicularis oculi

眼瞼裂のまわりにある筋で、眼窩周囲をおおう眼窩部と、眼瞼内に存在する眼瞼部および**内側眼瞼靭帯**の後にある涙囊部の3部分に分ける。眼をとじるときに働く筋である。

- 1) **眼窩部** orbital part: 眼窩の周りを輪状に取り巻く。眼輪筋の多くを占める筋である。この筋は、内側眼瞼靭帯、上顎骨前頭突起および前涙囊稜から起こり、眼窩縁を取り巻いて経過する。この筋のうち、内側の筋線維の一部は眉毛の内側部皮膚にまで達することもあり**眉毛下制筋** depressor supercili という。

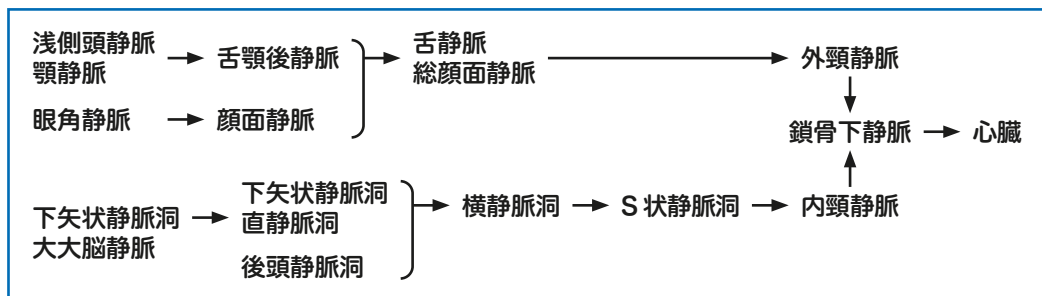


静脈，顎関節静脈などがある。この静脈叢からでる静脈前方へは深顔面静脈と頬静脈が顔面静脈に，後下方へは顎静脈 maxillary vein が浅側頭静脈と合流して，下顎後静脈となる。下顎後静脈に注ぐ静脈は他に，顔面横静脈 transverse facial vein などがある。翼突筋静脈叢はこの叢に麻酔液が入ることで青あざになることがあるのでこの静脈叢の存在は重要である。

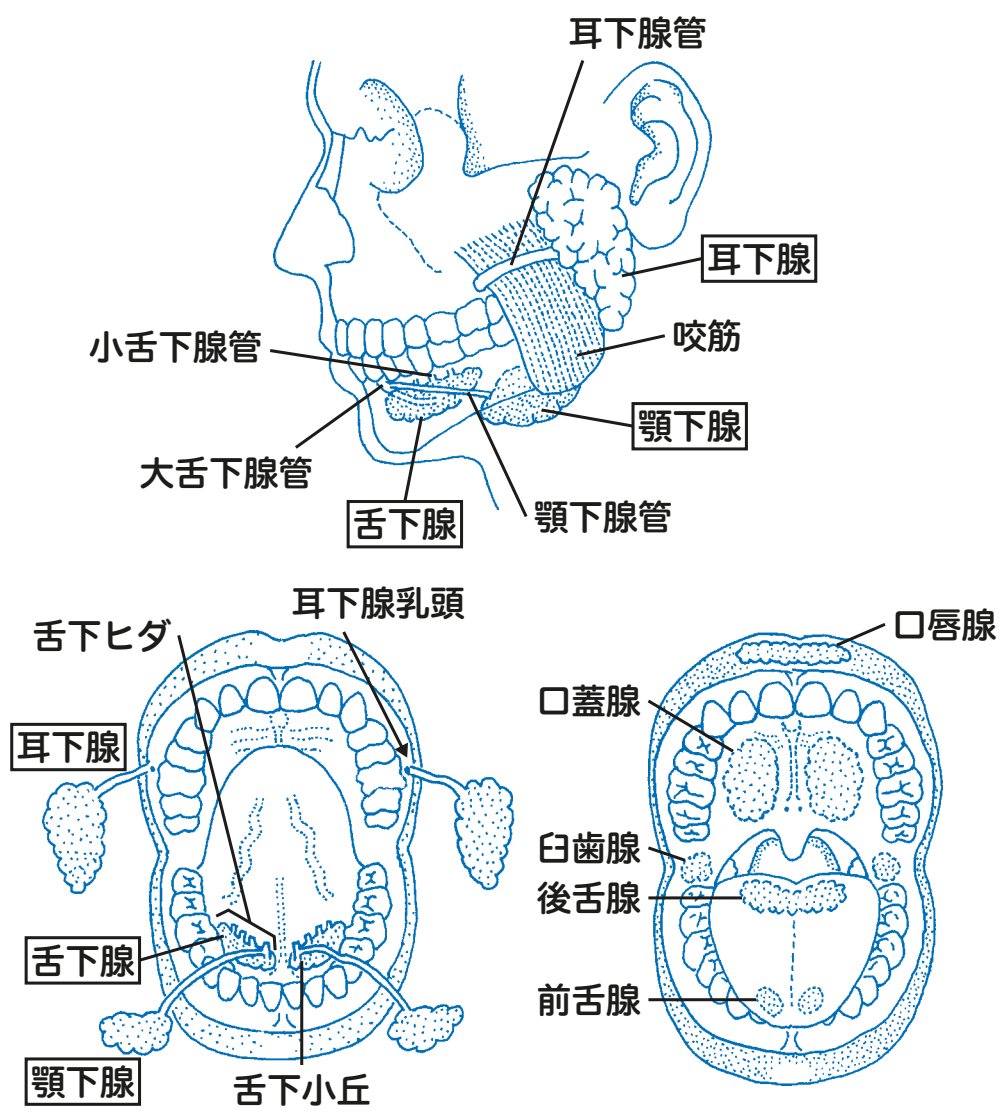
【外頸静脈 external jugular vein】

後頭部と頸部領域の静脈血を集めている。後耳介静脈と後頭静脈が耳介の後部で合流し，胸鎖乳突筋外側を下行して鎖骨下静脈か内頸静脈に合流する。この静脈はきわめて個体差が大きい。

【頭部顔面部および脳頭蓋の静脈のまとめ】

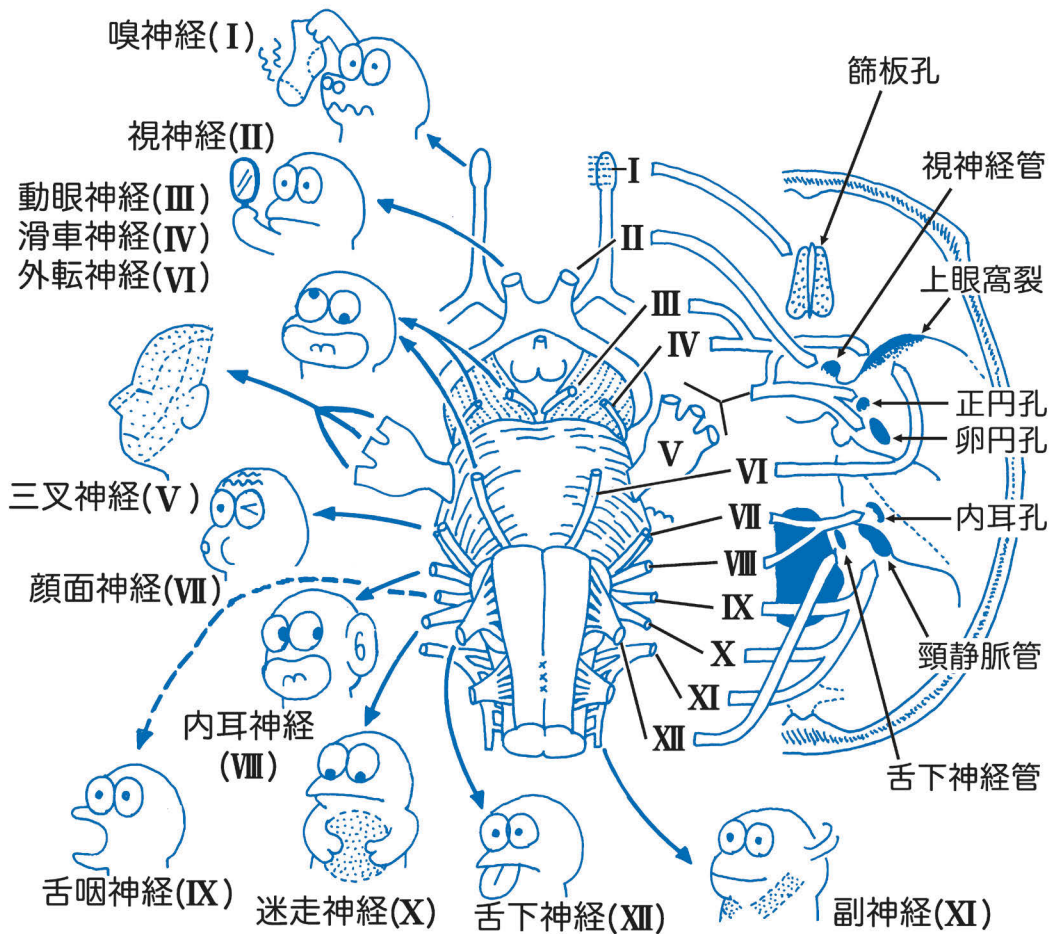


唾液腺（口腔腺）



		神経核	支配神経	管・開口	栄養動脈	性状
大唾液腺	耳下腺	下唾液核	舌咽神経 (小錐体神経 →耳神経節)	耳下腺管 →耳下腺乳頭	外頸動脈 浅側頭動脈 顔面動脈	漿液性
	舌下腺	上唾液核	顔面神経 (鼓索神経→ 顎下神経節)	舌下腺管 →舌下小丘 舌下ヒダ	顔面動脈	混合性
	顎下腺			顎下腺管 →舌下小丘	舌下動脈 顔面動脈	混合性

脳神経と通過する孔や管一覧



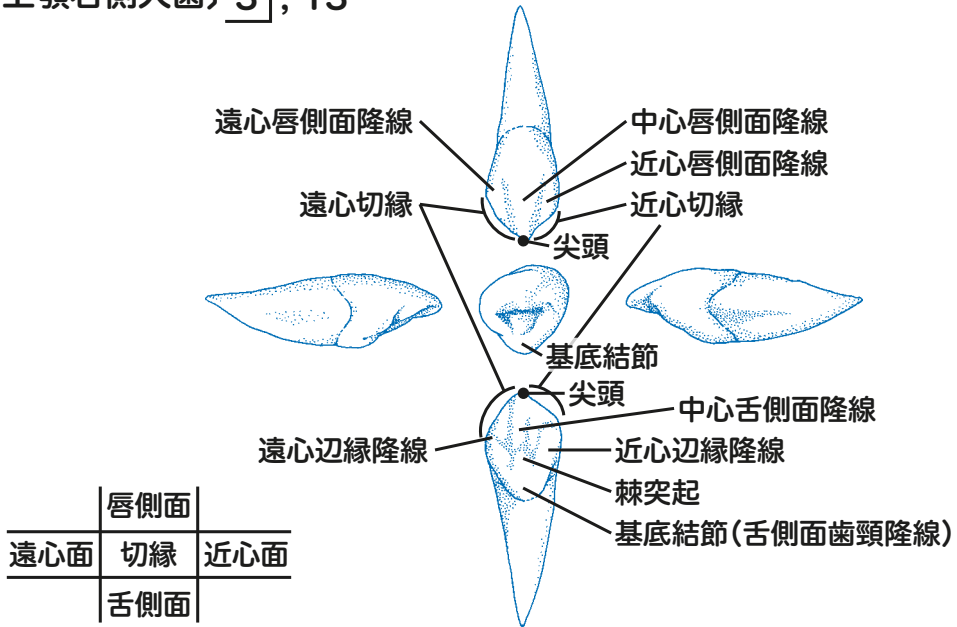
脳に入出入りする末梢神経を脳神経といい 12 対存在する。脳神経は頭蓋底を通過し主に頭頸部（一部は胸部・腹部内臓）に向かう。神経の機能は感覚性と運動性、両方を持つ混合性、さらに副交感性を含む脳神経もある。

顎顔面領域に特に関連する脳神経は三叉神経，顔面神経，舌咽神経，迷走神経，舌下神経である。

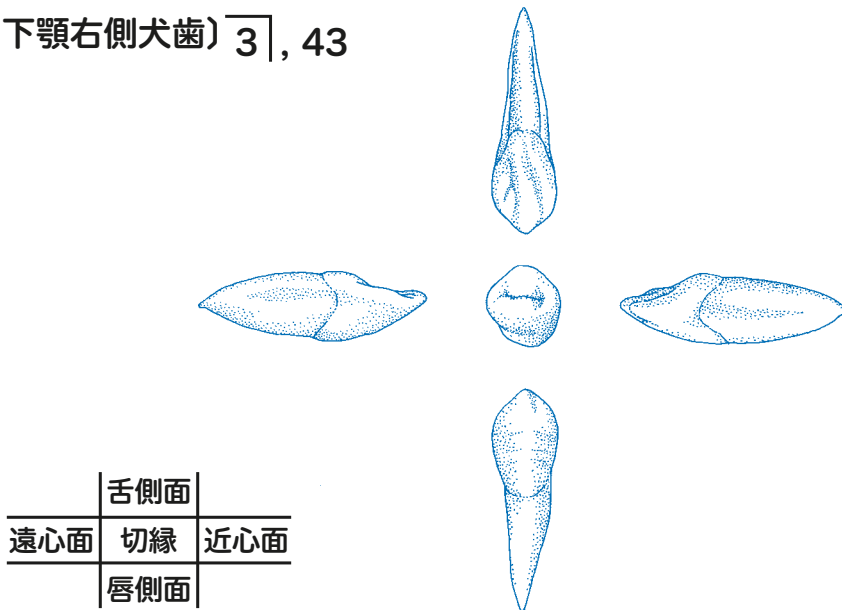
【12 脳神経の覚え方】

<u>かい</u> で	<u>みる</u>	<u>う</u> ごく	<u>くるま</u> の	<u>3</u> <u>みつ</u> の	<u>そ</u> と
嗅神経	視神経	動眼神経	滑車神経	三叉神経	外転神経
<u>か</u> お	<u>み</u> み	<u>の</u> どの	<u>ま</u> よう	<u>ふ</u> く	<u>ぜ</u> つ
顔面神経	内耳神経	舌咽神経	迷走神経	副神経	舌下神経

(上顎右側犬齒) 3 |, 13



(下顎右側犬齒) 3 |, 43



【犬齒】

1) 上顎犬齒

切齒群と小白齒群の間に位置する。
口角に位置する。
永久齒の中で齒根が最も長い。
齒冠切縁には近心よりに尖頭がある。
近心切縁は遠心切縁より短い。
齒頸部のくびれが強い。

2) 下顎犬齒

上顎犬齒より近遠心径(幅径)は短い。
齒冠切縁の近心寄りに尖頭がある。
近心切縁は遠心切縁より短い。
上顎に比べて、齒頸部のくびれは弱い。